

小麦「ふくはるか」の栽培暦（平坦地域）

◎普及適応地域：平坦地域の排水良好な圃場。

◎ふくはるかの特徴：（数値は、農業研究開発センターにおける平成22～27年産の平均値）
 ・出穂期は4月15日、成熟期は6月2日の早生種。
 ・稈長は約74cmと短稈で、耐倒伏性が強い。
 ・穂発芽性は「やや難」である。

**品質・収量の安定は
 「排水対策」の徹底から!!**

月	旬	生育段階・主な作業	栽培管理のポイント																												
11	上 中 下	圃場の選定・準備 ○ (播種期) ○ 耕起・施肥・播種 ○ 雑草防除	<p>圃場の選定・準備 ① 小麦は過湿に弱いので、排水可能な圃場を選ぶ。また、早めに圃場周囲に排水溝を作って水はけをよくしておく。機械で排水溝を掘るだけでなく、圃場外へ水が排水されるよう排水溝をつないでおく。</p> <p>② 圃場条件に応じ、3～5m間隔程度で排水溝を設ける。 ③ 雑草が多く、耕起作業の障害となる場合は、あらかじめ雑草防除しておく。</p> <p>酸度矯正 小麦は酸性に弱いので、耕起前に、必要に応じて苦土石灰等を施用する。 pH目標：6～6.5 [埴壤土のpHを1上げるためには、 苦土石灰が160kg/10a必要]</p> <p>元肥 10a当たり成分量 窒素：リン酸：加里＝8kg：8kg：8kg</p> <p>播種 ①種子消毒：播種前に登録薬剤を種子粉衣 ②播種期：11月15～25日頃 ③播種量：10kg/10a(全面全層播) 8kg/10a(条播)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>施肥 施肥基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">成分 (kg/10a)</th> <th rowspan="2">時期</th> </tr> <tr> <th>窒素</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>元肥</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>播種時</td> </tr> <tr> <td>追肥1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>2月10日頃</td> </tr> <tr> <td>追肥2</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>出穂10日後頃</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>15</td> <td>8</td> <td>12</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※前作や土壌条件を考慮して施肥を行う。 休耕田や野菜作後では元肥を減肥し、追肥も生育状況を見て行う。</p> <p>雑草防除 通常は播種直後に土壌処理剤を散布するのみで防除可能 ※ 耕起・播種前に雑草が多く作業の障害となる場合は、作業前に雑草が枯れるように、十分に時間を確保して非選択性茎葉処理剤を散布する。</p> </div>		成分 (kg/10a)			時期	窒素	リン酸	加里	元肥	8	8	8	播種時	追肥1	3	0	4	2月10日頃	追肥2	4	0	0	出穂10日後頃	合計	15	8	12	
	成分 (kg/10a)				時期																										
	窒素	リン酸	加里																												
元肥	8	8	8	播種時																											
追肥1	3	0	4	2月10日頃																											
追肥2	4	0	0	出穂10日後頃																											
合計	15	8	12																												
12	上 中 下		<p>覆土 ロータリー耕により、浅く攪拌する。覆土深は3cm程度とし、深くなりすぎないように注意する。</p> <p>播種の作業工程 耕起→施肥・播種・覆土→除草剤散布</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>土壌処理剤の効果をも高めるため、 ていねいな碎土・均平が必要</p> </div>																												
1	上 中 下	[麦踏み] [雑草防除]	<p>[麦踏み] …徒長防止と凍霜害対策として、12月～2月の茎立ち前で、圃場が乾燥している日に2回程度行う。ただし、土壌水分が高い条件では実施しない。</p> <p>雑草防除 雑草が残った場合、雑草の種類、生育に応じて茎葉処理剤を散布する（カラスノエンドウ・ヤムムグラ・スズメノテッポウ等の生育初期に散布）。</p>																												
2	上 中 下	追肥1	<p>追肥1 5葉期頃（2月10日頃） 10a当たり成分量 窒素：リン酸：加里＝3kg：0kg：4kg</p> <p>雑草防除 カラスノエンドウの種子は春までだらだらと発芽を続けるため、常発圃場では追加防除する。（2月中旬以降）</p>																												
3	上 中 下		<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">生育期間中は、降雨後も圃場内に 滞水しないよう排水に努める!!</p>																												
4	上 中 下	□ (出穂期) 追肥2 病害防除	<p>追肥2 出穂10日後頃（開花状況を確認して施用する） → 開花期追肥によって、タンパク質含量と千粒重が向上する穂数が少ない圃場に追肥すると外観品質が低下し、遅れ穂も増加</p> <p>10a当たり成分量 窒素：リン酸：加里＝4kg：0kg：0kg ※生育状況（㎡茎数・葉色）により施用量を加減すること!</p> <p>病害防除 小麦の最も重要な病害は、赤かび病である。 赤かび病は、開花期から乳熟期にかけて穂に発生する。始めは小穂がおかされ褐色となり、「ふ」の合わせ目からモモ色のカビが生じる。子実の稔実が悪くなり、減収や品質低下の原因となる。また、かび毒（DON：デオキシニバレノール、NIV：ニバレノール）が産成され、流通上問題となる。 出穂期以降の平均気温が18～20℃以上と高く、湿度が80%以上又は降雨が3日以上続くと、孢子飛散が盛んとなり発生が多くなる。 開花最盛期（出穂期後10日前後頃）とその7～10日後に薬剤による防除を行う。</p>																												
5	上 中 下																														
6	上 中 下	■ (成熟期) ■ 収穫・乾燥・調製	<p>収穫 成熟期は出穂後約50日頃。コンバインで収穫する場合、成熟期以降で穀粒水分が30%以下になってから行う。成熟期後に降雨に遭うと、外観品質だけでなく、容積重やフォーリングナンバー等の成分品質も低下するので、刈り遅れに注意する。</p> <p>乾燥 速やかに乾燥を行う。乾燥機で乾燥させる場合、40℃以下で行う。目標水分12.5%。</p> <p>調製 粒選機（網目2.2mm）により選別し、屑麦や細麦を取り除き、良質麦に仕上げる。</p>																												

(注) [] の作業は必要に応じて実施する。